

■ 調査目的

ペット取引により影響を受けている両生類の種・分類群を特定し、ワシントン条約による取引規制を含む保全措置を提案する。本調査では、米国に次ぐ第2位*の両生類輸入国であると同時に、多くの固有な両生類が生息する日本に焦点をあてた。

- 1) 「消費国」としての日本 → 日本の両生類輸入および日本市場の調査
- 2) 「原産国」としての日本 → 日本市場と欧米市場における日本固有の両生類の取引状況の調査

*ワシントン条約対象種の輸入記録にもとづく

■ 手法

※メインとなる日本の市場調査では、複数のデータ収集手法を組み合わせ、国内で販売される両生類のインベントリを作成し、分析を実施 (対象期間 2020年1月～2021年4月)

調査タイプ	対象 – 実施時期 / 対象期間	
① 日本の輸入統計分析	財務省貿易統計の分析 (対象期間: 2005年～2020年)	
②日本の市場調査 (※)	A) 主要なペットフェア調査	東京の主要なペットフェア 2 か所の実地調査 (2020年11月実施)
	B) 専門店サイト調査	5 事業者のインベントリと新着情報確認 (対象期間: 2020年1月～12月)
	C) eコマースサイト調査	ヤフオク等 4 サイトの検索時点の全広告の確認 (2021年1月～3月実施)
	D) 日本原産種の和名オンライン調査	オークファンで和名を網羅的に検索 (2021年4月実施 – 過去120日間分)
③欧米の取引サイトでの固有種調査	Facebook ほか専門取引 3 サイトで 29 種の学名検索 (2021年4月実施 – 確認した投稿の期間は 2004年～2021年4月)	

■ 結果概要

1. 日本への両生類の輸入

- 日本は **2005～2020 年の間に 129,809 頭、3 億 8400 万円相当の生きた両生類を輸入**。輸入量・金額ともに増加傾向にあり、輸入元地域は多様。分析期間中の総量では米国が最大であったが、近年ヨーロッパの他、中南米、アフリカ、アジアからの輸入が拡大し、2018～2020 年はニカラグアやペルーなどが新たな輸出国として台頭していることなどから、野生個体や新たにペット

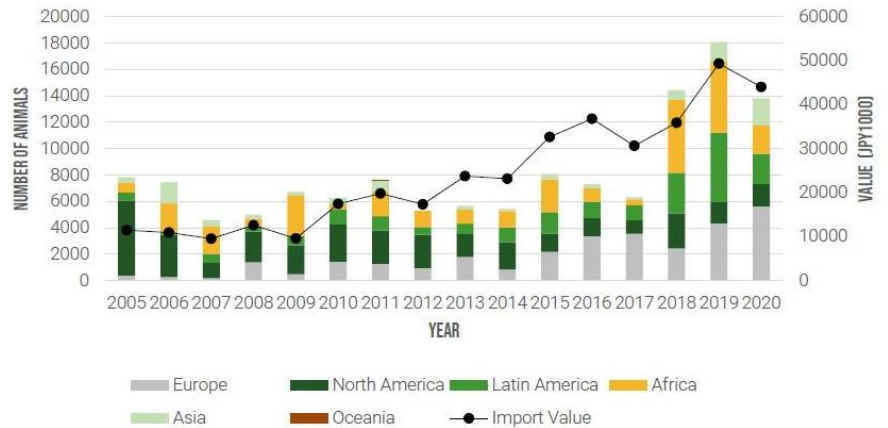


図1: 日本の両生類輸入の動向 (データ: 財務省貿易統計)

取引される種を含む原産国から直接の輸入の増加が懸念される。※[TRAFFIC が 2021 年 11 月に発表した米国の輸入統計分析](#)ではワシントン条約非掲載種の輸入個体数の 29%が野生由来と申告されていることも明らかになっている。

2. 日本での両生類の販売状況

- 日本の市場調査 (対象期間 2020年1月～2021年4月) から、**少なくとも 230 種と 25 亜種 (計 255 種・亜種) の両生類の販売を確認**。うち 85% (216 種・亜種) が海外原産で、**日本原産種は 39 種・亜種**が確認された。※本調査は [2022 年 1 月にサンショウウオ類 26 種が種の保存法で国内希少種に指定](#)される前に実施された点に留意。
- 230 種のうちワシントン条約非掲載種が **81%**を占め、**IUCN レッドリストの絶滅危機種 (CR/EN/VU) は 16%、近危種 (NT) もあわせると全体の 4 分の 1 に上った**。無規制な取引の影響が懸念される結果。

Illuminating Amphibians : the amphibian trade in Japan (2022年3月)

- 日本原産の両生類 39 種・亜種には、絶滅危機 7 種 (EN/VU)、近危急種 (NT) 9 種が含まれた。
- 少なくとも一つの販売個体・広告で**野生捕獲 (WC) の表示が見つかった種は全体の 27% (68 種・亜種)**。うち日本原産種が約 3 割 (= 22 種。販売が確認された日本原産種の半数以上)。国内法で両生類は個体の出所についての表示義務が無く、**実際の野生個体の利用はさらに多いことが予想される。**
- ペット取引により影響を受けている可能性の高い属以上の分類群には**ツノガエル科** (ツノガエル属 *Ceratophrys* spp. やチャコガエル *Chacophrys pierottii*)、**サラマンダラ属** (*Salamandra* spp.)、**トラフサンショウウオ属** (*Ambystoma* spp.)、**イモリ属** (*Cynops* spp.)、**アマガエルモドキ科** (Centrolenidae)、**ツブハダキガエル属** (*Theleiderma* spp.) 等が含まれた。※このほか、報告書本体では絶滅危機種 (表 4) や特に野生利用によるリスクのある種 (表 7 : 海外原産種 ; 表 8 : 日本原産種) を紹介。

3. 欧米サイトでの日本固有種の取引

- 調査対象 29 種のうち、**シリケンイモリ、アカハライモリ、イボイモリの 3 種の取引を示す投稿を確認**。このほか、サンショウオ属 (*Hynobius* spp.) 7 種とツバハコネサンショウウオ (*Onychodactylus tsukubaensis*) の所持を示す投稿も確認。今回の対象は、国内での捕獲・取引が禁止されている種も含むため、より詳細な海外の取引状況の調査が必要である。

■ 提言概要

1. 取引により影響を受けている可能性が高い種・分類群についてワシントン条約の取引規制や生息国での保全措置導入
2. 「消費国」としての日本→両生類を扱う事業者の法的管理の導入 (動物愛護管理法) と、e コマースを含む事業者による自主的な調達の改善 (合法性、持続可能性、トレーサビリティの担保)
3. 「原産国」としての日本→シリケンイモリのワシントン条約附属書 II 掲載ほか、取引の影響を受けている恐れがある種の国内法での保護、および海外取引状況のモニタリング

★本調査の報道と併せて使用可能な関連種の写真とキャプション (左から 1 ~ 5)



1. © Yuma Kanamori / シリケンイモリ (*Cynops ensicauda*) 沖縄本島やんばるにて。IUCN レッドリストで VU (危急種)、環境省レッドリストで NT (準絶滅危惧) 指定。国内で活発にペット取引され、野生捕獲 (WC) の表示も。欧米のサイトでも取引が確認された。
2. © David Lawson_ WWF-UK / ベルツノガエル (*Ceratophrys ornata*)、ウルグアイ、ブラジル、アルゼンチンに生息。IUCN レッドリストで近危急種 (NT) に分類され、日本でもペット取引が活発。ツノガエル科は人気が高く、人工交配されたブリードも流通するが、一部の種では野生捕獲 (WC) 個体も流通し、取引の影響が懸念される。
3. © Maurizio Biancarelli_ WWF / ファイアサラマンダー (*Salamandra salamandra*)、クロアチアの国立公園にて。多様な亜種が存在するヨーロッパ原産のファイアサラマンダーは日本でも人気。輸入や野生捕獲 (WC) 表示の個体も散見された (レッドリストでは低危険種 LC)。カエルツボカビ症を引き起こす真菌の感染が広がり、オランダでは 7 年間に野生個体の 99.9% が死滅したと報告されている。
4. © John Vess / アカメアマガエル (*Agalychnis callidryas*)、コスタリカにて。ペット人気が高く、ワシントン条約の附属書 II に掲載されている (レッドリストでは低危険種 LC)。日本の市場調査では野生捕獲 (WC) 表示の個体の販売が確認された。
5. © André Bärtschi_ WWF / グラスフロッグの一種 (アマガエルモドキ科 : Centrolenidae)、ペルーのマヌ国立公園にて。中南米原産のグラスフロッグは近年ペット人気が高まり、2019 年に開催されたワシントン条約第 18 回締約国会議で科ごと附属書 II に追加する提案されたが、情報の欠如等から採択されなかった。日本でも近年新たな種の流通が宣伝され、野生捕獲 (WC) 表示の個体も確認されていることから、取引の影響が懸念される。